

## ◇視聴報告まとめ<2017年2月4日号>◇

TBS「報道特集」

○特集1：先住民が問うトランプ政権

50万人が集まったトランプ大統領へのデモ行進にはアメリカ先住民たちの姿もあった。自らを「水の保護者」と呼ぶ先住民たちが建設を反対しているのはダコタ・アクセス・パイプラインだ。このパイプラインはノースダコタ州～イリノイ州を結ぶ石油輸送施設で、その一部が先住民が暮らすスタンディングロック居留地の側を通過する。抗議活動の中心的役割を担うのはスタンディングロック・スー族で、「先祖代々、継承してきた聖なる土地や水が汚される」と訴え、昨夏以降、治安維持を図る警察と度々衝突し、昨年12月にオバマ前政権はパイプライン一部の工事着工を認めない決定を下した。だが、トランプ政権の誕生で先住民は危機感を募らせた。

ノースダコタ州にあるスタンディングロック・スー族の居留地を取材。先月23日、同州で「国際インディアン条約評議会」の会議が開かれた。人権侵害に関する証言が相次ぎ、ある男性は警察官によって目を撃たれ、視覚以外に聴覚、味覚などに異常を来していた。会議を主催したアンドレア・カーメン氏は「パイプライン会社はスタンディングロック・スー族に情報提供せず、同意も得ずに彼らが水源としている川下にパイプラインを通すことにした」と話す。

トランプ大統領がパイプライン建設計画を認める大統領令に署名したことを受け、居留地に住む人々は集会所に集結し、今後の対応について議論を交わした。スタンディングロック居留地の行政庁舎で取材に応じた男性は先住民に伝わる歌を朗唱した。

アメリカ先住民の歴史家であるジョン・イーグル氏は世界中の先住民、自然破壊に抗う人々に関する幅広い知識を持ち、沖縄県民についても言及。同氏は「自らの土地を守ろうとしているあなたたちと我々は同じ場所に立っている。彼らのために祈ります。勇気を持ってください。成し遂げられます」とエールを送る。

金平キャスター「(先住民は) 沖縄のことを知っていましたね、スタンディングロックと沖縄県での抗議行動は相似点があります。環境を守る、マイノリティを低く見る傾向と沖縄を低く見る構造は繋がっている。日本のメガバンクもパイプライン建設計画に投資しています。彼ら(先住民)の環境・ルーツに対する思いは考えさせられるものがありましたね」

-----

**(検証者所感)**

アメリカ先住民の歴史家であるジョン・イーグル氏が沖縄について言及したことを受けて、金平キャスターがスタンディングロックと沖縄県での抗議行動の相似性を語っているが、そもそも「アメリカ先住民」と「沖縄県民」に相似点を見出すのは無理がある。沖縄県民が「先住民」としての意思行動を県議会で行ったことはなく（国連などではこの点誤解を持っている可能性が高いが）、米軍基地が沖縄に多く所在しているのは安全保障上の理由によるものであり、金平氏が語る「沖縄を低く見る構造」は見当外れの思い入れといえるのではないか。